

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

## 事業名 指導者養成・研修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 ジュニアアスリート発掘・育成係

電話番号：058-297-7003

E-mail：[c11173@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11173@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 635千円 (前年度予算額：633千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	633	0	0	0	0	0	0	0	633
要求額	635	0	0	0	0	0	0	0	635
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成24年度ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の経験から、アスリートの競技力向上においては、有能な指導者の元での科学的トレーニングが最も効果的であることが認識された。

選手は、有能な指導者と最適な競技環境を求めて、全国各地の中学校・高校への入学や企業への就職をする時代であり、特に科学的トレーニングのノウハウを指導者が取り入れることは、世界的なスタンダードとなっている。

### (2) 事業内容

県内のスポーツ指導者が、日本一はもちろん世界一を目指す選手を育成するための指導力をつけることを目的とする。

県スポーツ科学センター(GSSC)の平成27年度新設及び高地トレーニングエリアの平成29年度拡大に伴い、これまでの指導者講習・研修の一般論的な内容ではなく、高地トレーニングの効果等、最新の科学的トレーニングに関する知識・ノウハウを広く県内指導者に提供することを目的としたスポーツ科学サポートを取り入れた専門性の高い研修会を実施する。また、女性アスリート(指導者)を対象にした研修会も引き続き実施する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

指導者養成は、県の競技力向上に直結するため、県負担は妥当である。

### (4) 類似事業の有無

「有」 優秀指導者養成事業

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	450	講師謝金
旅費	125	講師旅費、打合せ業務旅費
消耗品費	6	事務用品
会議費	1	講師用飲料
役務費	1	郵便代
使用料	52	会場使用料
合計	635	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各計画での位置づけ

「岐阜県清流の国スポーツ推進条例」において、指導者の養成は県の責務としている。

「清流の国ぎふスポーツ推進計画」において、指導者養成講習会の充実を図るとしている。

### (2) 国・他県の状況

(公財)日本スポーツ協会・(公財)岐阜県スポーツ協会が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定と講習会を実施しているが、一般論が中心で本事業の特徴であるスポーツ科学サポートを取り入れた専門性の高い研修会は実施していない。

### (3) 後年度の財政負担

継続実施することにより効果が上がるものであり、同事業を継続する必要がある。

### (4) 事業主体及びその妥当性

GSSCを指定管理するのは県であり、県が実施することは妥当である。

# 事業評価調査書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

2021年に開催される東京オリンピックなどの国際大会や各種国内大会に向けて、技術指導のみではなく、スポーツ科学の視点からより効果的な科学的トレーニングを提供できる指導者を養成する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
研修会参加人数	0 (H26)	280/年 (H29)	164/年 (H30)	152/年 (R1)	300/年 (R3)	51%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

指導者研修会を実施

実施日：11月29日（日）、1月23日（土）、2月27日（土） 計3回

人数：各約60名

対象者：県内競技団体・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団

・中学校部活動・高等学校部活動の指導者

### (前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

県内のスポーツ指導者に対して、科学的トレーニングや女性アスリートへの指導に関するスポーツ科学サポートについての研修会を実施し、最新の理論を学び、指導力の向上を図ることができた。

最新の理論を学び、効果的な指導法や特性に応じた指導力が向上することで、競技力の向上が期待できる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</p>	
(評価) ○	<p>オリンピックの輩出には、優秀な指導者の存在が絶対条件であり、僅差の勝負を勝ち抜き日本代表になるためには、スポーツ科学サポートの見識が必要であるため、本事業が無ければオリンピックの輩出は難しい。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価) ○	<p>県内競技団体・スポーツクラブ・スポーツ少年団・中学校部活動・高等学校部活動の指導者が研修会に出席し、指導力及び健康管理の向上を図ることができた。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</p>	
(評価) △	<p>目標値達成に向けて、県内競技団体及びスポーツクラブ等への研修会案内・周知の工夫、魅力ある講師の招聘に取り組む余地がある。</p>

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内競技団体への研修会案内・周知だけでなく、様々な広報の方法を工夫する必要がある。 また、最先端のスポーツ科学の先駆者や、顕著な実績をもつ指導者に講師依頼をしていく必要がある。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 参加者アンケートを実施し、指導者ニーズを探り、それに応える研修会を計画する。 また、女性アスリートに対する指導方法及び健康管理については、まだまだ啓発が必要であるため、継続実施する。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>—</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	<p>—</p>